



1学期を振り返って～目指す児童像の視点より～

- 1 自ら判断し、進んで行動できる児童の育成
- 2 誰にでも、進んであいさつができる児童の育成
- 3 「ちょボラ活動」に進んで取り組む心豊かな児童の育成



1学期も残すところ1週間になりました。児童、職員が大過なく今日を迎えられましたのも保護者・御家族の皆様、地域の皆様の支えがあったからと感謝申し上げます。コロナ禍でマスク着用はもとより、遠足、宿泊学習等につきましても例年以上に御配慮いただきました。

さて、4月に掲げた重点目標『ひとはだぬごう北浦小NEXT』への3つの目指す児童像について振り返っていきたいと思います。

1 自ら判断し、進んで行動できる児童の育成

先日の学校生活アンケートで「ひとののためによいこと・役立つことに進んで取り組もうとしている」と回答した児童は94%でした。私も児童の生活を見ていると、年々、ひとはだぬぐ行動する児童が増えていると思っています。遠足や宿泊学習では、実行委員に進んで立候補し、友達の前で堂々と出発式や到着式の運営を行っていました。5、6年生の宿泊学習では、夜の班長会議で一日目の自分たちの行動を振り返り、二日目にどういった点を気をつけて行動するか、班長同士で話し合い、児童間で共有し、二日目の行動につなげていました。



授業への取組も変わりました。自分の思いや考えを発表したり、グループでの話し合いの場で堂々と伝えていました。この点は、学校生活アンケートでも年々高評価になってきています。

朝のあいさつ運動の実施、ゴミ拾いや玄関清掃、草抜き等、進んで取り組んでいる児童の姿が増えてきました。他にも学級の中で友達に消しゴムや定規を貸してあげたり、わからないところを教えてあげたりできたと思います。2学期はその活動の輪がさらに広がることを期待します。

2 誰にでも、進んであいさつができる児童

「相手を見て」「自分から進んで」「大きな声

で」「笑顔で」という「あいさつし隊」が持つプラカードのようなあいさつが、全児童ができるようになってもらいたいです。「〇〇さん、おはよう。」「(すれちがう時に)おはよう。」と、自分にあいさつされていることがはっきりしている時は、多くの児童がきちんとあいさつができます。

本校児童のあいさつで必要なのは、「自分から進んで」の意識だと思っています。「自分からの意識」が気の合う友達にしかいかなかったり、自分はこの場面ではあいさつしなくてよいと判断したりしているのかもしれませんが。

「あいさつ」については、家庭環境の影響が大きいと言われています。朝、起きてきたら『おはよう』、家を出る時は『いってらっしゃい』と家族が声をかけている家庭は、あいさつ・返事等が自然に身につく、大人になってもできるそうです。社会人のスタートで最も重要視されるのは『あいさつ』です。保護者の皆様の御理解・御協力もお願いいたします。

3 「ちょボラ活動」に進んで取り組む心豊かな児童の育成

本年度は「ちょボラ活動」が本校の特色ある活動の一つになってきていると感じています。高学年児童が中心となって、下級生と一緒に遊ぶ日を設定したり、雨の日は読み聞かせをしてあげたり、草抜きちょボラと銘打って全校縦割りでの活動したり、学校や他児童のために企画する活動等に「〇〇ちょボラ」と名付けて取り組んでくれるなど、「ちょボラ活動」が浸透したことがとてもうれしいです。



今後は、高学年児童を中心に学校周辺や地域へのボランティアを考え、実践していき、北浦小学校をもっともっと地域に誇れる学校にしてもらいたいと考えています。今の北浦小学校の皆さんなら必ずできます。